



TITLE:

公開シンポジウム「日中韓の教育
課程・教育評価改革の動向」
2008年度: 韓国の教育評価の改革及
び最近の動向

AUTHOR(S):

CITATION:

公開シンポジウム「日中韓の教育課程・教育評価改革の動向」2008年度: 韓国の教育評価の改革及び最近の動向. 子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究をめざして2012, 活動報告書(2007-2011年度): 233-251

ISSUE DATE:

2012-03-30

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/179665>

RIGHT:

「韓国教育評価の改革及び最近の動向」

白 淳根（韓国ソウル大学）

〔通 訳：趙 卿我（本学研究科修士課程）〕

私が作ったパワーポイントは韓国語ですので、手元のレジュメをご覧ください。

スライド 3

私が発表する目次は次のようになっています。

スライド 4～8

まず韓国教育評価の歴史に対して簡単にお話します。1000 年前の新羅時代から科挙制度が施行されており、読書三品科という制度で教育評価を行っていました。それは、1 品、2 品、3 品に分けて評価するものでした。科挙制度は 1000 年間続きました。1894 年には科挙制度が廃止されました。

1900 年から 1945 年までは日本と同じで科目別成績について相対評価を行っていました。教科目別に甲・乙・丙という評価体系を導入し、10 点満点もしくは 100 点満点で評価していました。そして序列を主とする相対評価、つまり日本では学年席次を導入しました。学生に対する品行評価も実施していました。

1945 年から 1970 年代初めにはアメリカの影響を受けました。選択肢問題が導入され、アメリカ式で A・B・C・D・E のように秀・優・美・良・可の評定体系が導入されました。そして標準化検査として学力検査や知能検査、性格検査、適性検査が行われました。1970 年代中盤から後半にかけては科目別絶対評価が導入されました。

1980 年代初めから 1990 年代中盤は相対評価と絶対評価の併用期でありました。1983 年には韓国教育評価学会が創立され、1995 年には国立教育評価院が設立されました。私がソウル大学の 4 年生であった 1983 年には、アメリカのブルーム先生が来校し、評価についての講義を行いました。

1990 年代後半から現代にかけて、遂行評価が導入され、実行されています。遂行評価については後で詳しく説明します。1998 年には韓国教育課程評価院が設立されました。

スライド 9～12

近年の韓国教育評価研究動向の定義は研究者によって様々ですが、一番特徴的なのは、教育評価研究分野の拡張の時期であることです。本来評価は、試験を受けるということだけではなく、「価値を問い、値を聞く」という意味でした。教育評価というのは、学生の成績を評価するだけでなく、教育と関連するある特性や現象に対して価値を付与する専門的

な活動であるとともに、その価値を高めるための改善・発展の方略を探索する体系的な活動です。「教育的価値」は次の三つの観点から評価できます。まず何かがよくなる「改善・向上」があげられます。そして、「個性・全人性」が強調されています。さらに何よりも、教師と学生の「誠意・熱意」が重要です。この三つすべてが重要であり、一つでも欠けると教育的価値が損なわれます。従来評価というと、学生評価だけを考えてきました。そのために今までの評価に関する本は学生評価に関するものでした。しかし最近では、次の六つの分野も教育評価として重視されています。中でも教員評価が重視されています。また、韓国教育課程評価院が設立されてからは、教育課程評価に対しても深く研究しています。その他、教育プログラム評価や学校及び機関評価も行われています。機関とは大学と塾を指します。教育をとりまく教育環境や教育政策についても活発に研究がなされています。

スライド 13～15

次は、遂行評価の導入及び定着について発表します。まず遂行評価について説明します。遂行評価とは、教師が、学生が学習課題を遂行する過程やその結果を観察し、その学生の知識、技能、態度などに対して専門的に判断する評価方式であります。遂行評価とは一つの方法であるだけでなく、一つのパラダイムです。すなわち、真理観、哲学的な根拠、時代状況、学習観、評価体制、評価内容、評価方法、教師の役割、学生の役割、教科書の役割、教授・学習活動において従来の評価体制とは異なります。時代状況については、産業化時代ではなく今の情報化時代を対象としています。評価体制についても、従来の評価は相対評価、量的評価、選抜型評価でありましたが、絶対評価、質的评价、助言型評価に変わっています。教師の役割については、従来は知識の伝達者でありましたが、遂行評価では学習の案内者・促進者とされています。教授・学習活動でも、従来は教師中心で認知的領域を中心として、暗記を主として基本的な学習の能力が強調されていました。しかし遂行評価では、学生を中心として、知・情・体すべてを強調し、探究中心で創意や高次の思考機能を強調します。

スライド 16～18

遂行評価の特徴は七つに分けて考えることができます。①教師の専門的判断に大きく依存します。②学生自らが答えを作成し、行動で表現します。そして⑥全人的評価や集団を対象とした評価をします。つまりペア学習やグループ学習の過程や成果も重視します。また⑦学生個人の変化・発達過程を総合的、全体的、継続的に評価します。遂行評価の必要性については次の5点にまとめられます。①知識・情報化時代で要求される思考の多様性、創意性の伸張、②多様な側面の能力に対する継続的な評価及び教授・学習活動の改善、③知っている知識を実際に適用できるかの把握、④学習者に意味がある学習活動の付与、⑤評価方法の多様化、専門化、特性化です。実際の状況をみるために、特に面接法や口頭試験、討論法が広く使用されています。

スライド 19

この遂行評価の政策導入及び推進過程について発表します。1994 年から遂行評価の必要性が理論的に主張されました。1994 年は北朝鮮の前国家主席の金日成（キム・イルソン）が亡くなった年です。韓国で金泳三（キム・ヨンサム）大統領が新しい大統領になってからは、教育全般にわたって教育改革が行われました。その時重要視されたのは、遂行評価のパラダイムでした。1996 年には『初等学校の新しい評価制度による遂行評価の理論と実際』という本が全国の先生に配布されました。1997 年にはソウル市を中心に「初等教育の新しい波」運動が行われ、初等学校で遂行評価が初めて行われました。そしてこの年の教員採用試験からは、従来の選択肢問題に加えて論述試験が課されるようになりました。大学でも、論述試験と面接試験が重視されるようになりました。中学校でも遂行評価を導入するために、1998 年には教育部が「教育ビジョン 2002：新学校文化創造」を公表しました。1999 年には、すべての学校段階で遂行評価が行われるようになり、教育部が公表した『学校生活記録部伝算処理及び管理指針』に基づいて成績づけがなされるようになりました。

スライド 20～22

さらに、学生評価のみならず教員評価にも遂行評価が導入されるようになりました。教員能力開発評価が導入され、実行されました。1999 年からはすべての学校段階で遂行評価を行うことにしたので、遂行評価ができない先生の中には辞職する先生もいました。その後、教員評価に関する様々な政策が立てられました。2005 年からは教員能力開発評価という政策が実施されています。一番重要なところは評価の方法であり、今までは管理者が評価していましたが、多面評価となり、校長や教頭のみならず教師や学生、保護者が評価に加わるようになりました。そして教員任用試験の制度も変わり、論述試験や面接試験などにより、遂行評価で授業ができるかを確認しております。そのため教員養成機関では、論述試験対策の教育が重視されています。

スライド 23～29

また、1990 年からは、学校や教育機関に対しても評価が行われています。その際、教育の計画を立てるだけでなく、それを実行し、その成果を出せるかを測定することが重要だと考えています。10 年間行われている学校評価の目的は、学校の教育改善を支援するための現状診断です。今までの学校評価では書面で評価していましたが、最近では学校を訪問し、どのように教えているかをみています。市・道教育庁に対する評価も 1996 年から行われています。韓国の 16 の市を直接訪問して評価しています。私も評価委員だったので、全国を回って市・道教育庁の評価を行いました。

スライド 30～33

次に教育政策についてお話しします。近年多元的な観点を考慮した評価が必要視されています。今までは教育当局(Authority)が評価を行っていました。しかし最近では、教育の需要者(User)や供給者(Provider)、専門家(Professional)の観点も重視されています。そして教育政策を行う際にはこの四つすべてを考慮する必要があるとしてされています。この四つの観点を考慮した評価のモデルは、英語の頭文字をとって、PUPA モデルと呼ばれています。そして PUPA モデルの意義としては、利害関係者の立場と意見を十分に反映し、利害関係者の合意点を模索できることがあげられます。また、利害関係者の共同体である教育共同体の発展にも寄与しています。

スライド 34

続いて、李明博（イ・ミョンバツ）大統領の教育評価改革についてお話しします。教育分野の改革のキーワードは、自律、責務、競争、成果、教育自治、先進化です。個人的側面では、入試における無意味な苦痛の緩和、私教育費の負担縮小、学校選択権の保障です。学校の側面では、学校の自律的力量強化、多様な教育プログラム運営能力強化、学校の責務性強化です。国家的側面では、規制緩和、地方分権、情報提供、支援強化です。

スライド 35～37

そしてこのキーワードに基づき、三つの教育評価改革法案が出されています。一つ目は大学入試の3段階の自律化です。まず学生部及び「修学能力試験（つまり、日本でいう大学入試）」の結果の反映方法を自律化しました。また修学能力試験は従来7科目であったのが5科目、4科目と縮小されています。さらに大学の完全自律化を求めています。二つ目は基礎学力責任制です。初等3年で基礎学力診断評価のための試験を、初等6年、中学3年、高校1年で国家水準学業成就度評価のための試験を行っています。三つ目は学校の情報公示制です。学校運営に関する規定、学生変動状況、教科別学習に関する事項、国家水準学業成就度評価結果、学生充員率、就業率などの情報をインターネットで公表しています。そして、初・中・高の学校別学力調査の結果や校内暴力状況、疎外階層比率などを公開しています。

スライド 38

最後に、グローバル化時代において韓国で行われている教育評価は次のようなものです。教育評価の研究対象の拡大、教育評価研究方法の多様化、教育評価専門家の体系的な養成、新しい教育評価理論と実践の開発・普及をしています。また、グローバル化時代である現在の状況を鑑みて、国家間交流の拡大や相互理解及び協力の増進にも力を入れています。


ご静聴ありがとうございました。

記録：細尾 萌子（教育方法学講座 M2）

EME Educational Measurement & Evaluation

한국 교육평가의 개혁 및 최신동향
(韓国教育評価の改革及び最近の動向)

백순근
(白淳根、ヘッ・スンゲン)
서울대학교 교육학과 교수
(ソウル大学学校教育学科教授)



1


안녕하세요
こんにちは



2

목 차 (目次)

1. 韓国の教育評価の歴史
2. 教育評価研究分野の拡張
3. 遂行評価の導入及び定着
4. 教員評価
5. 学校及び教育機関評価
6. 多様な利害関係者たちの持つ観点の活用
7. 李明博 (이·명박, 이명박) の教育評価改革の方向
8. グローバル化時代における教育評価




3

1. 韓国の教育評価の歴史

▶ 1900年代以前: 科擧制度施行期


신라시대 (新羅時代, B.C. 57~A.D. 935)
=== 독서삼품과(讀書三品科)
고려(高麗918~1392) 及び 조선(朝鮮, 1392~1910)
- 과거제도(科擧制度), 1894年廃止



4

▶ 1900年~1945年: 科目別成績、相対評価導入期

- 「學籍簿」及び「個性調査簿」の導入
- 教科目別「甲(갑, 甲)・乙(을, 乙)・丙(병, 丙)」評定体系の導入
- 10点満点もしくは100点満点の評価体制の導入
- 序列を主とする相対評価(学年席次)の導入
- 学生に対する品行評価の実施



5


▶ 1945年~1970年代初: 選択式問題、標準化検査導入期

- 選択式問題の導入
- 相対評価による「秀(수, 秀)・優(우, 優)・美(미, 美)・良(양, 良)・可(가, 可)」の評定体系の導入
- 標準化検査導入: 学力検査、知能検査、性格検査、適性検査

▶ 1970年代中盤~後半: 科目別絶対評価導入期

- 絶対評価による

「秀、優、美、良、可」の評定体系の導入

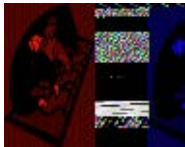


6

▶ 1980年代初~1990年中盤:

相対評価と絶対評価の併用期

- 国・英・数中心の本考査の廃止
- 全科目換算点数による席次の導入
 - 大学入試で内申成績を活用
- 「科目別成就度 (=達成度) 評定換算表」の活用
- 教科目別の学年席次の導入
- 韓国教育評価学会創立(1983), 国立教育評価院(1995) 設立



7

7

▶ 1990年代後半~現在: 遂行評価導入及び施行期



- 遂行評価の導入及び拡大実施
- 初等学校: 成績と席次を廃止、
「文章陳述式評価体系」の導入
- 韓国教育課程評価院設立(1998)

8

8

2. 教育評価研究分野の拡張

(1) 教育評価の概念

▶ 평가(評價、Evaluation)

本来は「価値を問い、値を聞く」という意味で、
ある人や事物もしくは方法及び手順などの適・不適、善悪、美醜、優劣、良し悪しなどとその水準の程度を判断すること。



9

9

▶ 교육평가(教育評價、Educational Evaluation)

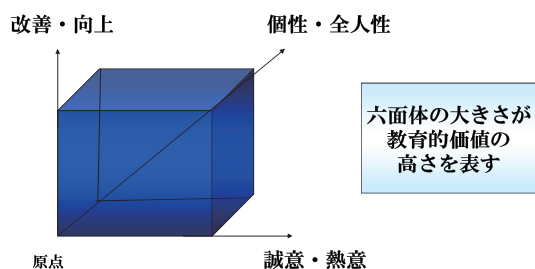
教育と関連するある特性や現象に対して価値を付与する専門的な活動であるとともに、その価値を高めるための改善・発展の方略を探索する体系的な活動



10

10

※ 「教育的価値」を評価するための基準



11

11

(2) 教育評価の研究分野



12

12

3. 遂行評価の導入及び定着

▶ 수행평가(遂行評価、performance assessment)

教師が、学生が学習課題を遂行する過程やその結果を観察し、その学生の知識、技能、態度などに対して専門的に判断する評価方式



13

13

▶ 従来の評価体制と遂行評価体制の特性比較

区分	従来の評価体制	遂行評価体制
真理観	絶対主義的真理観	相対主義的真理観
哲学的な根拠	合理論、経験論、伝統的心理測定学	構成主義、現象学、解析学、人類学、最近の認知心理学
時代的状況	産業化時代（少品種大量生産）	情報化時代（多品種少量生産）
学習観	直線的・連続的・位階的な過程 抽象的・客観的な状況の重視 学習者の記憶・再生産の重視	認知構造の継続的な変化 具体的・主観的な状況の重視 個別学習者の理解・教育的成長の重視
評価体制	相対評価、量的評価、選抜型評価	絶対評価、質的評価、助言型評価
評価内容	宣言的(結果的、内容的)知識 学習の結果重視 学問的知能の構成要素	節次的(過程的、方法的)知識 学習の結果と過程の双方を重視 実践的知能の構成要素

14

14

区分	従来の評価体制	遂行評価体制
評価方法	選択型試験 標準化検査重視 大規模評価重視 単発的・部分的な評価 客観性・一貫性・公正性を強調	遂行評価中心 各教師による評価重視 小規模評価重視 持続的・総合的な評価 専門性・妥当性・適合性を強調
教師の役割	知識の伝達者	学習の案内者・促進者
学生の役割	受動的な学習者 知識の再生産者	能動的な学習者 知識の創造者
教科書の役割	教授・学習・評価の核心となる内容	教授・学習・評価の補助資料
教授・学習活動	教師中心 認知的領域中心 暗記を主とする 基本的な学習の能力を強調	学生中心 智・情・体(知・徳・体)をすべて強調 探究中心 創意、高次の思考機能を強調

15

15

▶ 遂行評価の特徴



- ① 教師の専門的判断に大きく依存
- ② 学生自らが答えを作成し、行動で表現
- ③ 教育目標の達成可否を可能な限り現実の状況に即して把握
- ④ 教授・学習の結果だけではなく過程も重視
- ⑤ 学生の学習過程の診断及び個別学習の促進
- ⑥ 全人的評価、集団を対象とした評価（ペア学習やグループ学習の過程や成果）も重視
- ⑦ 学生個人の変化・発達過程を総合的、全体的、継続的に評価

16

16

▶ 遂行評価の必要性



- ① 知識・情報化時代で要求される思考の多様性、創意性伸張
- ② 多様な側面の能力に対する継続的な評価及び教授・学習活動改善
- ③ 知っている知識を実際に適用できるかどうかの把握
- ④ 学習者に意味がある学習活動の付与
- ⑤ 評価方法の多様化、専門化、特性化

17

17

▶ 遂行評価の方法

遂行評価のレベル	評価方法	備考
とても高い ↑	現実に見られる状況での評価 実技試験、実験・実習法、観察法 面接法、口頭試験、討論法 自己評価法、同僚評価報告書法 ポートフォリオ 研究報告書、プロジェクト法 論述型 叙述型	広く使用されている方法
↓ とても低い	短答式 完成型(穴埋め問題) 多肢選択式 組み合わせ問題 真偽型(○×問題)	普通は、遂行評価に含めない

18

18

▶ 遂行評価の政策導入及び推進過程

- 遂行評価に対する理論的論議
 - 1994年から体系的に論議（白淳根、1994； 白淳根、1995 など）
 - 『中等学校の新しい評価制度による遂行評価の理論と実際』（白淳根他、1996）
- ソウル市、「初等教育の新しい波」運動(1997)
- 教育部、「教育ビジョン2002：新学校文化創造」(1998)
- 教育部、『学校生活記録部電算処理及び管理指針』公表(1999)
 - 学生の教科成績を算出する際に、遂行評価の結果を反映させる

19

19

4. 教員評価

(1) 教員能力開発評価の導入及び施行

▶ 評価目的

- 公平な教員評価を通じ
能力開発促進及び支援体制構築
- 教員の専門性伸張を通じ
学校現場の革新を誘導
- 各学校階梯を学習組織化し、学習
文化が形成されるように制度化



20

20

▶ 現行勤務成績評定と教員能力開発評価の比較

区分	勤務成績評定	教員能力開発評価
導入	1969年から実施	2005年から一部の学校で試験的に実施
目的	昇進など人事資料で活用	教員能力開発資料で活用
哲学	序列化、差別化評価 外在的、補償的価値に重点	基準附合判別評価 内在的、本質的価値に重点
対象	教師、教頭	教師、教頭及び校長
方法	管理者評価 (校長、教頭による)	多面評価 (校長、教頭、教師、学生、保護者による)
基準	全国的に統一された指標	指標自律決定(各学校の特性を反映させる)
方式	総括的評価、相対評価	形成的評価、絶対評価
周期	毎年1回実施	一年を通して何度も評価を実施し、その結果を総合したものを使って、毎年1回実施
フィードバック	結果非公開、フィードバックは不十分	結果を本人に通知、フィードバック措置随伴

21

21

(2) 中等学校の教員任用試験体系改編

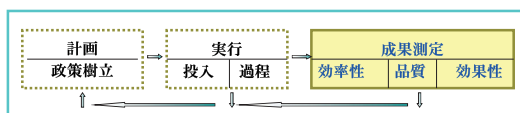
従来の案	変更案
<ul style="list-style-type: none"> 筆記考査(100点): 教育学(20、4択式の問題)、専攻(80、叙述・短答式) 大学成績(20点)、加算点(10点) 130%選抜 論述、面接、実技試験で評価 教育戸別、最高50-60点を付与 100%選抜 	<ul style="list-style-type: none"> 1段階典型(一次試験) 2段階典型 3段階典型 合格者 特徴 選択型筆記試験(100点): 教育学及び専攻(5択式の問題、英語科: 英語聞き取り評価を含む) 大学成績(20-40点)、加算点(5-10点) 200%以上選抜 論述型試験(100点): 専攻に対する総合的な理解及び教職遂行能力(外国語教科: 外国語で実施) 150%以上選抜 教職適性深層面接及び授業能力評価(100点) 100%選抜 1次、2次試験の点数を合算 1次試験中心型(最終合格者決定に影響力過多) 2、3次試験中心型(最終合格者決定に1次試験の影響力縮小)

22

22

5. 学校及び教育機関評価

▶ 成果測定中心の評価モデル



- 効率性(Efficiency): 投入を通じどれ程多くの算出があったのか
- 品質(Quality): 質的観点で満足度や政策の質に対する利害関係者の認識はどうか
- 効果性(Effectiveness): 最終的に実現しようとした中・長期的効果及び結果を達成したのか

23

23

(1) 学校評価

▶ 学校評価の目的

- 学校の教育改善を支援するための現状診断
- 学校教育全般に対する国家水準の質の点検及び学校教育に関する政策効果の把握
- 学校教育関連主体（教師、学校、教員養成機関、教育研究機関など）の情報交流の活性化



24

24

▶ 学校評価の主な内容

評価領域	評価内容
学校教育目標	学校教育目標及び実践戦略
教育課程及び方法	学生理解の努力、教育課程編成・運営、教授・学習活動
教育成果管理	教育の成果、教育成果に対する評価
教育経営	学校構成員のリーダーシップ、教職員の専門的共同体構築、教育活動のための行財政への支援、学校運営委員会及び地域社会との関係、放課後学校運営

25

25

▶ 学校評価の方法及び手順

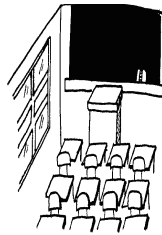
評価委員	大学教授、学校の教員、研究員、保護者など4名
評価期間	1日(現場訪問による評価)
評価資料	評価対象校が作成した自校の評価報告書(及び学校教育計画書)
評価手順	学校評価指針書及び学校評価便覧開発→ 学校別自校評価委員会構成及び自校評価表作成→ 外部評価員構成及び研修→ 自校評価報告書に対する書面評価→ 学校現場評価→ 評価結果分析及び領域別優秀学校選定→ 最終報告書作成

26

26

▶ 学校評価の結果活用

- 総合評価報告書を作成・提供し、学校教育の質改善及び発展のための参考資料として活用
- 評価領域別優秀学校を指定し、特別支援金及び**自助努力費を提供**

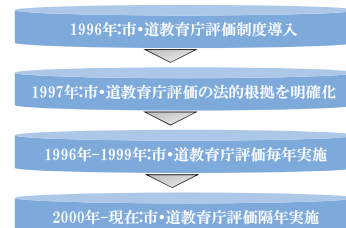


27

27

(2) 市・道教育庁評価

▶ 市・道教育庁評価の推進経過



28

28

▶ 市・道教育庁評価の目的

- 教育庁の主要施策事業目標達成度点検→ **責務性向上**
- 教育庁間の好ましい競争の誘導→ 地方教育行政の**効率性向上**、地方教育の**水準向上**

▶ 市・道教育庁評価の方法

- 評価方法: 書面による評価、現場訪問による評価
- 評価時期: 11月(現場訪問による評価)
- 結果発表: 課題別市・道の総合成績発表、分野及び領域別成績発表、市・道別総合順位公開

29

29

6. 多様な利害関係者たちの持つ観点の活用

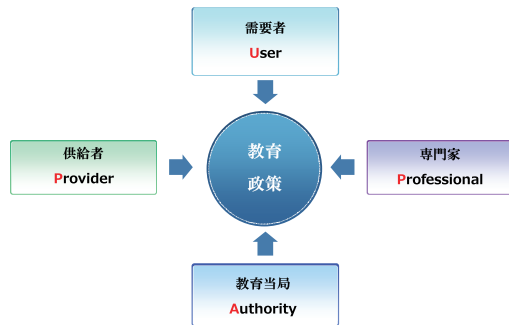
▶ 多元的観点を考慮した評価の必要性

- 教育は多くの利害集団が絡んでいるため、利害関係者の間で葛藤が生じる場合が多い。
- 利害関係者たちを説得するためには多様な利害関係者たちの利害関係及び評価要求を多面的な評価方法で把握する活動が必要。
- しかし、従来は政治的、実理的な理由から価値を総合し、単一な評価結果を出す方式が求められたため、多様な観点を考慮した評価が活用されなかった。

30

30

▶ PUPA モデル



31

31

① 供給者 (Provider)

特定の教育活動やサービスを開発し、供給する者の立場で評価する

② 需要者 (User)

特定の教育活動やサービスに対して需要者及び消費者の立場で評価する

③ 専門家 (Professional)

特定の教育活動やサービスに対して関連分野の専門家の立場で評価する

④ 教育当局 (Authority)

特定の教育活動やサービスに対して管理、監督する教育当局の立場で評価する

32

32

▶ PUPAモデルの意義



- 利害当事者の立場と意見を充分に反映し、利害関係者間の合点を模索
- 各観点から評価した結果を分析、総合して特定の教育政策の実態をきちんと把握
- 利害関係者の共同体である教育共同体の発展に寄与

33

33

7. 李明博 (이·요한박, 이명박) の教育評価改革の方向

▶ 教育分野の改革の方向

キーワード: 自律、責務、競争、成果、教育自治、先進化

- 個人的側面：入試における無意味な苦痛の緩和、私教育費の負担縮小、学校選択権の保障
- 学校(大学)の側面：学校の自律的力量強化、多様な教育プログラム運営能力強化、学校の責務性強化
- 国家的側面：規制緩和、地方分権、情報提供、支援強化

34

34

▶ 教育評価改革方案

(1) 大学入試、3段階自律化

1. 学生部及び「修学能力試験（大学入試）」の結果の反映方法の自律化

- 大学の学科特性による反映比率の決定

2. 「修学能力試験」科目の縮小

- 現在7科目→5科目→4科目

3. 完全自律化

- 大学の自校選抜能力と制度的基盤が構築できた時、大学入試を完全に各大学に任せる



35

35

(2) 基礎学力責任制

- 該当学年のすべての学生が、基礎学力診断評価(初3において実施)と、国家水準学業成就度評価(初6、中3、高1において実施)のための試験を受験
- 学生たちの学業推移測定を通し、学力不振学生を減らし、不振分野を向上させ、学生の進路指導に活用



36

36

(3) 情報公示制

- すべての初・中・高と大学は学校運営に関する規定、学生変動状況、学年・教科別学習に関する事項、国家水準学業成就度評価結果、学生充員率、就業率などの情報をインターネットに公示
- 初・中・高：学校別学力調査(基礎学力未達学生比率、前年対比成就水準向上率、教科目別学生の成就水準)、校内暴力現況、学校不適応者現況などを公開
- 大学：新入生の出身高校類型及び特性、疎外階層比率公開



37

37

8. グローバル化時代における教育評価

- 教育評価の研究対象の拡大
- 教育評価研究方法の多様化
- 体系的な教育評価専門家の養成
- 新しい教育評価理論と実践の開発・普及
- 国家間交流の拡大、相互理解及び協力の増進



38

38

EME Educational Measurement & Evaluation

*Thank you very much
for your attention !*



백 순 근
(서울대학교 교육학과 교수)

 dr100@snu.ac.kr

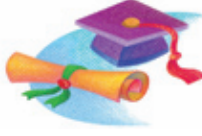
39

(翻訳：趙 卿我 教育方法学講座 M2)

39

EME Educational Measurement & Evaluation

한국 교육평가의 개혁 및 최신동향



백 순 근
(서울대학교 교육학과 교수)

1

1




안녕하세요
こんにちは

2

2

목 차

1. 한국 교육평가의 역사
2. 교육평가 연구분야의 확장
3. 수행평가의 도입 및 정착
4. 교사평가
5. 학교 및 교육기관평가
6. 다양한 이해당사자들의 관점 활용
7. 이명박 정부의 교육평가 개혁 방향
8. 세계화 시대를 위한 교육평가




3

3

1. 한국 교육평가의 역사

▶ 1900년대 이전: 과거제도 시행기




- 신라시대(B.C. 57~A.D. 935)
 - 독서삼품과(讀書三品科)
- 고려(918~1392) 및 조선(1392~1910)
 - 과거제도(科擧制度), 1894년 폐지

4

4

▶ 1900년~1945년: 과목별 성적, 상대평가 도입기

- 학적부(學籍簿) 및 개성조사부(個性調査簿) 도입
- 교과목별 '갑·을·병' 평정체계 도입
- 10점 만점 혹은 100점 만점 평가체제 도입
- 서열 위주의 상대평가(학년 석차) 도입
- 개별 학생에 대한 품행평가(品行評價) 실시



5


5

▶ 1945년~1970년 초: 선택형 문항, 표준화 검사 도입기

- 선택형 문항(選擇型 問項) 도입
- 상대평가에 의한 '수·우·미·양·가' 평정체계 도입
- 표준화 검사 도입: 학력검사, 지능검사, 인성검사, 적성검사

▶ 1970년 중반~후반: 과목별 절대평가 도입기

- 절대평가에 의한 '수·우·미·양·가' 평정체계 도입



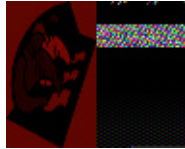
6

6

▶ 1980년대 초~1990년대 중반:

절대평가와 상대평가의 혼용기

- 국·영·수 중심의 본고사 폐지
- 전과목 환산점수에 의한 석차 도입
 - 대입에서 내신성적으로 활용
- '과목별 성취도 평정 환산표' 활용
- 교과목별 학년 석차 도입
- 한국교육평가학회 창립(1983), 국립교육평가원(1995) 설립



7

7

▶ 1990년대 후반~현재: 수행평가 도입 및 시행기



- 수행평가 도입 및 확대 실시
- 초등학교: 성적과 석차 폐지, 문장 진술식 평가체제 도입
- 한국교육과정평가원 설립(1998)

8

8

2. 교육평가 연구 분야의 확장

(1) 교육평가의 개념

▶ 평가(評價, Evaluation)

원래 '가치를 따져 값을 매긴다'라는 뜻으로
어떤 사람이나 사물, 혹은 방법이나 절차 등의 옳고 그름,
선함과 악함, 아름다움과 추함, 우수함과 열등함, 좋고 나쁨,
그리고 그 수준이나 정도를 따지는 일



9

9

▶ 교육평가(教育評價, Educational Evaluation)

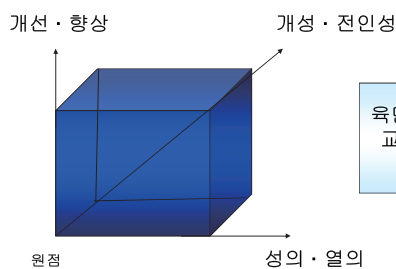
교육과 관련되는 어떤 특성이나 현상에 대해
가치를 따져 값을 매기는 전문적인 활동이며,
그 값을 더 높이기 위한 개선·발전 방안을
탐색하는 체계적인 활동



10

10

※ '교육적 가치'를 평가하기 위한 기준



11

11

(2) 교육평가의 연구 분야



12

12

3. 수행평가의 도입 및 정착

▶ 수행평가(遂行評價, performance assessment)

교사가 학생이 학습과제를 수행하는
과정이나 그 결과를 보고,
그 학생의 지식이나 기능, 태도 등에 대해
전문적으로 판단하는 평가 방식



13

13

▶ 전통적 평가체제와 수행평가 체제의 특성 비교

구분	전통적 평가 체제	수행평가 체제
진리관	절대주의적 진리관	상대주의적 진리관
철학적 근거	합리론, 경험론 등 전통적 심리측정학	구성주의, 현상학, 해석학, 인류학 등 최근의 인지심리학
시대적 상황	산업화 시대(소품종 대량 생산)	정보화 시대(다품종 소량 생산)
학습관	직선적·연속적·위계적 과정 추상적·객관적 상황 중시 학습자의 기억·재생산 중시	인지구조의 계속적 변화 구체적·주관적 상황 중시 개별 학습자의 이해·교육적 성장 중시
평가체제	상대평가, 양적 평가, 선발형 평가	절대평가, 질적 평가, 충고형 평가
평가내용	선언적 지식(내용적 지식) 학습의 결과 중시 학문적 지능의 구성요소	절차적 지식(방법적 지식) 학습의 결과 및 과정도 중시 실천적 지능의 구성요소

14

14

구분	전통적 평가 체제	수행평가 체제
평가방법	선택형 평가 위주 표준화 검사 중시 대규모 검사 중시 일회적·부분적 평가 객관성·일관성·공정성 강조	수행평가 위주 개별 교사에 의한 평가 중시 소규모 검사 중시 지속적·종합적 평가 전문성·타당도·적합성 강조
교사의 역할	지식의 전달자	학습의 안내자, 촉진자
학생의 역할	수동적 학습자, 지식의 재생산자	능동적 학습자, 지식의 창조자
교과서의 역할	교수·학습·평가의 핵심 내용	교수·학습·평가의 보조 자료
교수, 학습 활동	교사 중심 인지적 영역 중심 암기 위주 기본 학습능력 강조	학생 중심 지·정·체 모두 강조 탐구 위주 창의성 등 고등 사고기능 강조

15

15

▶ 수행평가의 특징



- ① 교사의 전문적 판단에 크게 의존
- ② 학생 스스로 답을 작성하거나 행동으로 표현
- ③ 교육목표 달성 여부를 가능한 한 실제 상황에서 파악
- ④ 교수·학습의 결과 뿐 아니라 과정도 함께 중시
- ⑤ 학생의 학습과정 진단 및 개별학습 촉진
- ⑥ 전인적 평가, 집단에 대한 평가도 중시
- ⑦ 학생 개인의 변화·발달과정을 종합적, 전체적, 지속적으로 평가

16

16

▶ 수행평가의 필요성

- ① 지식·정보화시대에서 요구되는
사고의 다양성, 창의성 신장
- ② 여러 측면의 능력에 대한 지속적 평가
및 교수·학습 활동 개선
- ③ 아는 것을 실제로 적용할 수 있는지 파악
- ④ 학습자에게 의미 있는 학습 활동 부여
- ⑤ 평가 방법의 다양화, 전문화, 특성화



17

17

▶ 수행평가의 방법

수행평가 본질의 구현 정도	평가 방법	비고
매우 높음	실제상황에서의 평가 실기시험, 실험·실습법, 관찰법 면접법, 구두시험, 토론법 자기평가법, 동료평가 보고서법 포트폴리오 연구보고서, 프로젝트법 논술형 서술형	널리 사용되고 있는 방법들임.
매우 낮음	단답형 완성형(말호형) 선다형 연결형(줄긋기형) 진위형(○×형)	보통 수행평가 방법에 포함시 키지 않음.

18

18

▶ 수행평가 정책 도입 및 추진 과정

- 수행평가에 대한 이론적 논의
 - 1994년부터 체계적으로 논의 시작(백순근, 1994; 백순근, 1995 등)
 - '초등학교의 새로운 평가제도에 따른 수행평가의 이론과 실제'(백순근 외, 1996)
- 서울시, '초등교육 새물결 운동'(1997)
- 교육부, '교육비전 2002: 새 학교문화 창조'(1998)
- 교육부, '학교생활기록부 전산처리 및 관리지침' 공표(1999)
 - 학생들의 교과성적 산출 시 수행평가 결과 반영

19

19

4. 교사평가

(1) 교원능력개발평가의 도입 및 시행

▶ 평가 목적

- 공정한 교원평가를 통해
능력개발 촉진 및 지원체제 구축
- 교원의 전문성 신장을 통한
학교 현장 혁신 유도
- 단위학교를 학습조직화하고
학습문화가 형성되도록 제도화



20

20

▶ 현행 근무성적평정과 교원능력개발평가 비교

구분	근무성적평정	교원능력개발평가
도입	1969년부터 시행	2005년부터 시범운영 실시
목적	승진 정보 등 인사자료로 활용	교원 능력개발 자료로 활용
철학	서열화, 차별화 평가 외재적, 보상적 가치에 중점	기준부합 판별 평가 내재적, 본질적 가치에 중점
대상	교사, 교감	교사, 교감 및 교장
방법	관리자 평가(교장, 교감)	다면평가(교장, 교감, 교사, 학생, 학부모)
기준	전국적으로 통일된 지표	지표 자율 결정(단위학교 특성 반영)
방식	총괄평가, 상대평가	형성평가, 절대평가
주기	매년 1회 실시	연중 평가 결과를 종합해 연 1회 실시
환류	결과 비공개, 환류 미흡	결과 통보, 환류 조치 수반

21

21

(2) 중등교사 임용시험 체제 개편

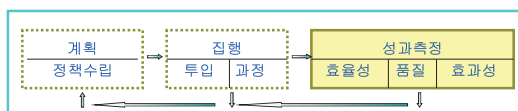
기존안	변경안
<ul style="list-style-type: none"> ■ 지필고사(100점): 교육학(20, 4지 선다형), 전공(80, 서술·단답형) ■ 대학채학성적(20점), 가산점(10점) ■ 130% 선발 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 선택형 필기시험(100점): 교육학 및 전공(5지선다형, 영어과: 영어 듣기평가 포함) ■ 대학채학성적(20-40점), 가산점(5-10점) ■ 200% 이상 선발
<ul style="list-style-type: none"> ■ 논술, 면접, 실기평가 ■ 교직원별 총 50-60점 부여 ■ 100% 선발 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 논술형 시험(100점): 전공에 대한 종합적 이해 및 교직수행능력 (외국어교과: 외국어로 실시) ■ 150% 이상 선발
-	<ul style="list-style-type: none"> ■ 교직적성 심층면접 및 수업능력 평가(100점) ■ 100% 선발
<ul style="list-style-type: none"> ■ 1차, 2차 점수 합산 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 합격자 선정 ■ 1차, 2차, 3차 점수 합산
<ul style="list-style-type: none"> ■ 1차 시험 중심형 (최종합격자 결정에 영향력 크다) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2, 3차 시험 중심형 (최종합격자 결정에 1차 시험 영향력 축소)

22

22

5. 학교 및 교육기관평가

▶ 성과측정중심의 평가모형



- 효율성 (Efficiency): 투입을 통해 얼마나 많은 산출이 있었는가
- 품질 (Quality): 질적 관점에서 만족도나 정책의 질에 대한 이해당사자의 인식은 어떠한가
- 효과성 (Effectiveness): 궁극적으로 실현하고자 했던 중·장기적 효과 혹은 결과를 달성하였는가

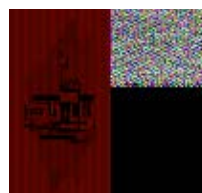
23

23

(1) 학교평가

▶ 학교평가의 목적

- 단위학교의 교육 개선을 지원하기 위한 현 상황 진단
- 학교교육 전반에 대한 국가수준의 질 점검 및 학교교육에 대한 정책 효과 파악
- 학교교육 관련 주체들 (교사, 학교, 교원양성기관, 교육연구기관) 간 정보교류 활성화



24

24

▶ 학교평가의 주요 내용

평가영역	평가내용
학교교육목표	학교교육목표 및 실천전략
교육과정 및 방법	학생 이해의 노력, 교육과정 편성·운영, 교수·학습 활동
교육성과 관리	교육의 성과, 교육성과에 대한 평가
교육경영	학교구성원의 리더십, 교직원들의 전문적 공동체 구축, 교육활동을 위한 행·재정 지원, 학교운영위원회 및 지역사회와의 관계, 방과 후 학교 운영

25

25

▶ 학교평가의 방법 및 절차

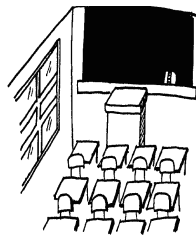
평가위원	교수, 교원, 연구원, 학부모 등 4명
평가기간	1일(현장방문평가)
평가자료	자체평가보고서(또는 학교교육계획서)
평가절차	학교평가지침서 및 학교평가편람 개발→ 학교별 자체평가위원회 구성 및 자체평가표 작성→ 외부평가단 구성 및 연수→ 자체평가보고서에 대한 서면평가→ 학교현장평가→ 평가결과 분석 및 영역별 우수학교 선정→ 최종평가보고서 작성

26

26

▶ 학교평가의 결과 활용

- 종합 평가보고서를 작성·제출하여, 단위학교 교육의 질 개선 및 발전을 위한 참고자료로 활용
- 평가영역별 우수학교를 지정하여, 특별지원금 또는 자구노력비 제공

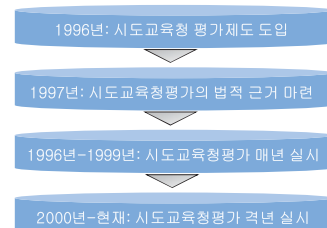


27

27

(2) 시·도교육청평가

▶ 시·도교육청평가의 추진 경과



28

28

▶ 시·도교육청평가의 목적

- 교육청의 주요시책 사업 목표 달성도 점검→ 책무성 제고
- 교육청 간 선의의 경쟁 유도→ 지방교육행정의 효율성 제고, 지방교육의 수준 향상

▶ 시·도교육청평가의 방법

- 평가방법: 서면평가, 현장평가
- 평가시기: 11월(현장방문평가)
- 결과발표: 과제별 시·도 종합성적, 분야 및 영역별 성적 발표, 시·도별 종합순위 공개

29

29

6. 다양한 이해당사자들의 관점 활용

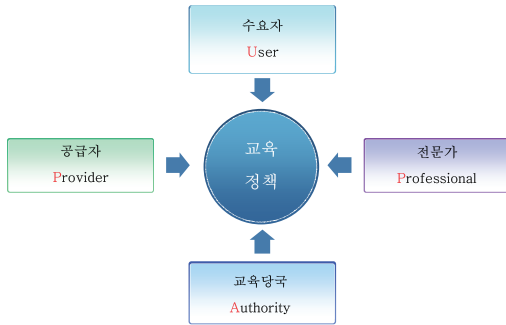
▶ 다원적 관점을 고려한 평가의 필요성

- 교육은 많은 이해 집단이 서로 얽혀 있어 이해당사자들 간 갈등이 야기되는 경우가 많음.
- 이해당사자들을 설득하기 위해서는 다양한 이해당사자들의 이해관계와 평가요구를 다면적인 평가방법으로 파악하는 활동이 필요함.
- 그러나 그동안 정치적, 실제적 이유에서 가치를 종합해 단일한 평가결과를 내리는 방식이 선호되었기 때문에, 다양한 관점을 고려한 평가는 지금까지 많이 활용되지 않았음.

30

30

▶ PUPA 모형



31

31

① 공급자위주 (Provider)

특정 교육 활동이나 서비스를 개발하고 공급하는 공급자의 입장에서 평가하는 것

② 수요자위주 (User)

특정 교육 활동이나 서비스에 대해 수요자 혹은 소비자의 입장에서 평가하는 것

③ 전문가위주 (Professional)

특정 교육 활동이나 서비스에 대해 관련분야 전문가의 입장에서 평가하는 것

④ 교육당국위주 (Authority)

특정 교육 활동이나 서비스에 대해 관리, 감독해야 하는 교육당국의 입장에서 평가하는 것

32

32

▶ PUPA 모형의 의의



- 이해당사자들의 입장과 의견을 충분히 반영하고, 이해당사자들 간 합의를 모색함.
- 각 관점에서 평가한 결과를 분석, 종합함으로써 특정 교육정책의 실체를 제대로 파악함.
- 이해당사자들의 공동체라고 할 수 있는 교육공동체의 발전에 기여함.

33

33

7. 이명박 정부의 교육평가 개혁 방향

▶ 교육분야 개혁 방향

키워드: 자율, 책무, 경쟁, 성과, 교육자치, 선진화

- 개인적 측면: 무의미한 입시고통의 완화, 사교육비의 부담 축소, 학교선택권의 보장
- 단위학교(대학) 측면: 학교의 자율적 역량 강화, 다양한 교육프로그램 운영 능력 강화, 단위학교의 책무성 강화
- 국가적 측면: 규제 완화, 지방분권, 정보제공, 지원 강화

34

34

▶ 교육평가 개혁 방안

(1) 대학입시 3단계 자율화

1. 학생부 및 수능 반영 자율화

- 대학의 학과 특성에 따른 반영 비율 결정

2. 수능과목 축소

- 현재 7과목 → 5과목 → 4과목

3. 완전 자율화

- 대학 자체 선발능력과 제도적 기반이 구축되었을 때 대학입시를 완전히 대학에 맡김.



35

35

(2) 기초학력 책임제

- 기초학력 진단평가(초 3)를 해당 학년의 모든 학생들이 응시하고, 국가 수준 학업성취도 평가(초 6, 중 3, 고 1)를 모든 중·고등학교에서 실시
- 학생들의 학업추진 측정을 통해 학력부진 학생을 줄이고, 부진 분야를 향상시키며, 학생 진로지도에 활용



36

36

(3) 정보 공시제

- 모든 초·중·고교와 대학은 학교운영에 관한 규정, 학생변동 상황, 학년·교과별 학습에 관한 사항, 국가수준 학업성취도 평가 결과, 학생 충원율, 취업률 등의 정보를 인터넷에 공시해야 함.
- 초·중·고: 학교별 학력자료(기초학력 미달학생 비율, 전년대비 성취수준 향상도, 교과목별 학생의 성취수준), 학교폭력 현황, 학교 부적응자 현황 등을 공개함.
- 대학: 신입생의 출신 고교 유형 및 특성, 소외계층 비율 등을 공개함.



37

37

8. 세계화 시대를 위한 교육평가

- 교육평가의 연구 대상 확대
- 교육평가의 연구 방법 다양화
- 체계적인 교육평가 전문가 양성
- 새로운 교육평가 이론과 기법의 개발·보급
- 국가간 교류 확대, 상호 이해 및 협력 증진



38

38

EME Educational Measurement & Evaluation

*Thank you very much
for your attention !*



백 순 근
(서울대학교 교육학과 교수)

 dr100@snu.ac.kr

39

39